

**第80回国民スポーツ大会青森県準備委員会
第1回宿泊専門委員会 結果概要**

1 日 時

令和元年8月23日（金） 13：30～14：30

2 場 所

青森国際ホテル 別館 4階 むつ湾

3 出欠状況

出席者 10名

欠席者 1名

4 議事概要

（1）委員長・副委員長の報告

委員長を中山大輔委員に、副委員長を齋藤長徳委員に委嘱したことを報告。

（2）説明・報告事項

① 国民スポーツ大会の概要について

② 宿泊専門委員会について

③ 宿泊施設基礎調査の結果について

事務局から①～③について説明。

（3）審議事項

第80回国民スポーツ大会宿泊基本方針（案）

事務局から説明。原案どおり可決。

（4）その他

イメージソングの歌詞募集について

事務局から説明。

【質疑等】

(委員)

標準献立について、岩手国体では岩手県栄養士会が国体用におもてなしレシピ集を作成したが、青森国スポでもこのようなものを作成することを考えているのか。

(事務局)

年次スケジュールは先催県を参考に作成しているが、先催県の多くが標準献立・レシピ集等を作成しており、先催県にならえば、レシピ集を作成することもあると現時点では考えている。本県の食文化等をPRできる最高の機会なので、今後はどういう形で進めて行くかは委員の方のご意見等を伺いながら決めていきたい。

(委員)

食事の提供については郷土料理を主体にすれば良いと思うが、県から食材の使用についての要望があれば、それを考えて郷土料理のメニューを提案できると思う。

(事務局)

かなりの人数が来県するため、食材の調達についても、県の関係部局とも相談していきたい。

(委員)

国スポは全県での開催であり、宿泊施設が充足している所と不足する所がある。人数だけ見ると充足することになっているが今後、不足する会場地市町村が問題になってくると思うので注意していく必要がある。また、競技日程についてはこれから考えていくのか。

(事務局)

競技日程は開催3年前に、天候や宿泊施設の状況を踏まえた上で決めることになっているが、その前段階から、日程を想定した上で宿泊施設の実態を把握しながら準備を進めたい。

競技が一番多いのは青森市となっているが、水泳、ビーチバレーボール、トライアスロンは天候等もあり、9月中旬に開催することを想定している。また、ボート、セーリングも自然環境との兼ね合いで会期前開催とし、他の競技と会期をずらしながら宿泊施設を活用していくという打合せを会場地市町村と行っている。今後、仮配宿をしながら調整したい。

資料P14の表の上段が会期前競技の日程となっている。

(委員)

インバウンドのトップシーズンは10月となっており、6年後は更に外国人観光客も増えていると思われるので、配宿の調整は早めに行う必要がある。また、宿泊施設によっては国内の旅行会社間で宿舎の確保の競争があり宿泊料金が高騰しているため、早めに関係機関と連携しながら理解をいただかなければ厳しいと思う。

(委員長)

まだ6年前であるが、宿泊に関して様々な問題も出てくると思われるので協議していかねばいけないと思う。

(委員)

大会の全ての関係者の宿泊の手配は、委託することになるのか。それとも、チームによっては直接宿泊施設に手配することもあるのか。

(事務局)

先催県では旅行エージェントへの業務委託により運営する配宿センターで予約、キャンセル、苦情処理等、配宿全般にわたっての業務を行っており、必ず配宿センターを通して行っている。

配宿センターを通すのは、選手・監督、競技役員等で一般の応援の方は各自の手配となる。岩手国体では宿泊所を岩手県内に確保できなかった応援の方は隣県に宿泊しながら応援したようである。青森国スポでも会場地によっては岩手国体同様のケースもあると思われる。

(委員)

総合開会式に何回か参加したことがあるが、開会式での弁当も注目されるので、良いメニューを考案していただきたい。

(委員)

宿泊が確保できない場合に、施設に話をして収まるようにしていければと思う。

(委員)

開催期間が決まっているので、その時期にPRできる県産食材やアスリート向けの食材の選定について関係機関と連携していきたい。

(委員)

青森国スポではインバウンドに限らず国内の旅行者の方々への影響が最小限となるよう準備を進めていただきたい。

以上